

# 環境改善を実施した林内ホダ場に伏せ込んだホダ木から発生した 子実体の放射性物質濃度の変化 (1)

— 伏せ込みから約1年半後の結果 —

## 1 はじめに

林内ホダ場における放射性物質の影響を明らかにするため、 $A_0$ 層除去(以下、「環境改善」)後のホダ場に放射性物質濃度(以下、「濃度」)の低いホダ木(以下、「代替ホダ木」)を伏せ込み、濃度の変化を調べています(林業技術情報No.54、57)。今回は、新たに環境改善を行った林内ホダ場(No.60)で、伏せ込みから約1年半後の子実体の濃度を測定しました。

## 2 調査方法と結果

【方法】平成24年11～12月に、一関市内のアカマツ林、スギ林、広葉樹林の3調査地に、 $A_0$ 層除去区と非除去区を設けました。同年12月に、代替ホダ木をヨロイ伏せで伏せ込みました。本数は除去区で75本、非除去区が225本です。平成26年5月に、各調査地で子実体をホダ木の上、下および横木(No.54)に分けて採取しました。次に乾燥、粉碎し、子実体重量の4.7倍量の水を加えて濃度を測定しました。また、ホダ場の地面に堆積した有機物層( $A_0$ 層)の放射性物質量を算出し(No.64)、濃度との関係を調べました。

【結果】いずれの区の子実体からも、放射性物質が検出されました。しかし、濃度の平均値(図1)、最高値はいずれも100Bq/kg未満でした。調査地で濃度を比べると、スギ林でやや高い傾向を示しました。除去区と非除去区で比べると、スギ林とアカマツ林では、除去区が非除去区より低い傾向を示しました。子実体を採ったホダ木の部位別に比べると、除去区では部位間に差はありませんが、スギ林とアカマツ林の非除去区では、ホダ木

の下部から採った子実体で高い傾向がみられました。

地面の放射性物質量と、子実体の濃度との関係を見ると、放射性物質量が多い場所で採った子実体ほど、濃度が高い傾向がみられました(図2)。このことは、 $A_0$ 層の放射性物質が子実体の濃度に影響する可能性を示します。



$A_0$ 層除去  
1年半後の  
ホダ木と子実体  
(スギ林)

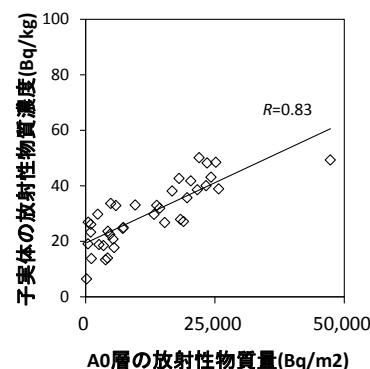


図2  
 $A_0$ 層の  
放射性物質量と  
子実体の濃度

## 3 成果の活用

環境改善が子実体の濃度の低減に効果があることがわかりました。濃度は今後変化する可能性があります。引き続き、代替ホダ木や子実体の放射性物質濃度を調査していく予定です。

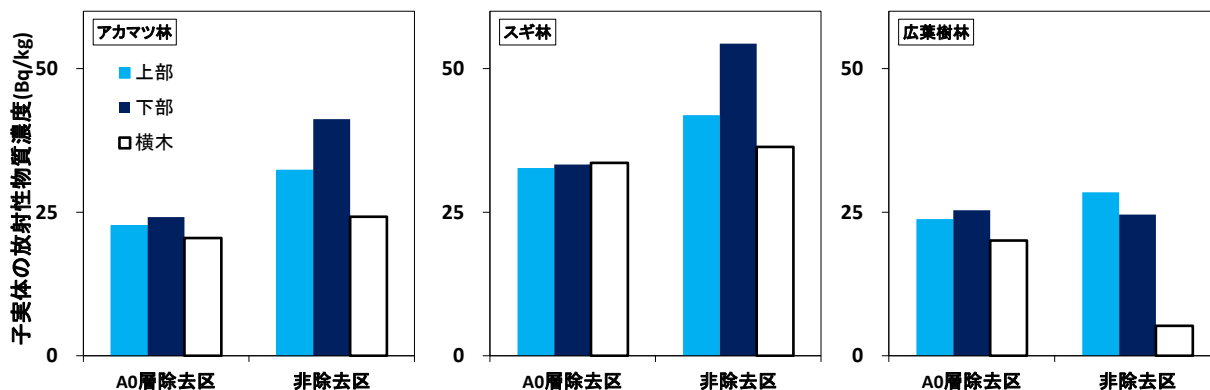


図1 伏せ込み1年半後の子実体の放射性物質濃度

(担当 研究部 主査専門研究員 成松 眞樹)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>

T E L 019-697-1536

F A X 019-697-1410